



AIN SHAMS UNIVERSITY

日本語・アラビア語における条件表現

Conditional Form in Japanese and Arabic

アファーフ・イマード

修士学位論文

2018 年

指導教官 :

Prof.Dr/ Adel Amen Saleh Prof.Dr/ Mohamad Ragab Al wazir

Cairo University
Faculty of literature
Department of Japanese
language and literature

Ain Shams University
Faculty of Al-Alsun
Department of Arabic language

目次

はじめに	4
本研究の目的	4
研究方法.....	5
研究資料.....	6
先行研究.....	7
研究意義.....	10
研究構成.....	11
研究の範囲.....	11
第一章：日本語における条件表現	14
1.1 日本語研究における「条件表現」の定義.....	14
1.2 条件文の構成.....	15
1.3 動作主、発話主体	17
1.4 条件表現の体系	18
1.4.1 順接条件、逆接条件 (Concessive conditional)	18
1.4.2 仮定条件、確定条件	21
1.4.3 恒常条件	24
1.4.4 修辞条件文と反事実条件文	26
1.4.5 擬似条件文	29
1.4.6 遂行的条件文	31
1.4.7 経験的条件表現と分析的条件表現	32
1.5 二つの事態の間に成立する関係 (条件表現に隠された意味) (発	

話意図)	34
1.6 条件形式の特徴.....	35
1.6.1 日本語条件形式の体系	35
1.6.2 固有の用法、意味機能.....	38
第二章：アラビア語における条件表現.....	41
2.1 アラビア語の統語・形態的な概略.....	42
2.2 アラビア語研究における「条件表現」の定義	44
2.3 アラビア語条件文の構成	44
2.4 アラビア語条件節の一般的な特徴.....	45
2.5 アラビア語条件形式.....	46
第三章「たら」特徴・用法	48
3.1 「たら」の特徴.....	48
3.2 「たら」の用法.....	49
3.3 第三章のまとめ	57
第四章：黒柳徹子作『窓ぎわのトットちゃん』における「たら」使用例とのアラビア語対訳	59
4.1 本作品を研究対象に選んだ理由	59
4.2 著者略歴.....	60
4.3 翻訳者略歴	60
4.4 小説の概要	61
4.5 たら構文とアラビア語対訳	61
4.6 分析	63
4.6.1 アラビア語訳における条件形式の使用	63
4.6.2 「たら」用法分類	65

4.6.3 「たら」仮定的用法のアラビア語訳	66
4.6.4 「たら」確定的用法のアラビア語訳	68
4.6.5 「たら」反事実的用法のアラビア語訳.....	70
4.6.6 「たら」事実的用法のアラビア語訳	71
4.7 考察	72
第五章：日本語・アラビア語における条件表現の共通点や相違点	77
共通点	79
相違点	80
まとめ	82
今後の課題	85
資料	86
参考文献	86
図一覧表	93
用語リスト　日本語・アラビア語対訳	93

日本語・アラビア語における条件表現

はじめに

日本語とアラビア語は統語的、音声的に非常に異なっている。アラビア語はセム語族に属しているが、日本語はどの語族に属しているか、研究者の間で議論が起きている。日本語は、トルコ語、モンゴル語のようなアルタイ語族に属していると言う研究者もいれば、日本語はどの語族にも属していないと訴える研究者もいる¹。アラビア語の文字は表音文字であるが、日本語には表音文字、表意文字の両方が存在している。語順の面でも、日本語の文は主語に続き、目的語、動詞という SOV 型であるが、アラビア語は文の意味によって語順が変わる。両方の言語はそれだけ異なるとはいっても、実は文法的、意味論的に似ている面も多くある。例えば、両方の言語で共通点の多い**条件表現**である。その言語特有の特徴もありながら、共通点、相違点の多い条件表現はアラビア語母語話者の日本語学習にとって、非常に曖昧なものである。

本研究の目的

条件表現は現代日本語学、言語研究における一大テーマであり、日本語研究においても長い研究史がある。条件表現が言語研究や日本語研究で大きな話題になるのはそれが言語の様々な側面にかかわるためである。その条件表現に関して日本語から言語

¹ 角田太作（2005）『世界の言語と日本語』くろしお出版

研究に提供できる興味深い問題に条件形式の多様性というものがある。

そこで、本研究では、「たら」などのような「条件表現」に焦点を当てたいと思う。「条件表現」の定義・範囲などを探し、その特徴を探って行きたい。また、アラビア語の条件表現とも比較して、共通点、相違点を明らかにしたいと思う。

本研究は、日本語とアラビア語の条件文を対照することを通して、条件文の言語普遍性と個々の言語固有の特徴を明らかにすることを目的としている。

日本語条件表現特有の特徴を明らかにすることで、他言語と比較したり、翻訳したりする際に一つの手がけになるのではないかと期待している。

研究方法

本論文は比較対象研究である。まず、個々の条件形式に関わらず、日本語・アラビア語の条件表現を一般的に、大きく見たときに見えてくる特徴を探る。その特徴を探るには、先行研究や文法書ではどのように紹介されているか調べる。

その後、代表的な条件形式として、「たら」を取りあげ、その特徴や用法を探って行きたい。

現代日本語・アラビア語の条件表現にはどのような共通点や相違点があるか見極めるにはやはり先行研究や文法書を調べただけでは物足りないと思い、実際にはどのように使われているか、両言語間にはどのように訳されているか調べるのが一番いいと思った。それで、黒柳徹子作『窓ぎわのトットちゃん』という作品から「たら」使用例を集め、分析・分類し、体系化しようと思う。次にその作品のアラビア語訳を調べ、「たら」構文がアラビア語にはどのように訳されているか分析し、なぜ、そのような訳

が与えられたか、訳文にはどのような特徴が現れたかを明らかにすると共に、条件表現における両言語間の共通点や相違点を見出していこうと思う。

研究資料

本論では、講談社出版の黒柳徹子作『窓際のトットちゃん』(1981) 及び、アリー・ハサン・エルサムニー&小谷野 晃によるアラビア語訳『Totto chan al fataah al saghira inda al shubbaak』『تُوتُوشِنْ الْفَتَاهُ الصَّغِيرَةُ عِنْدَ الشَّبَاكَ』を用いることにした。その理由はいくつかある。

1. 条件表現が多く使われている。
2. 「たら」は会話文に現れる傾向があり、本作品は会話文が多いため、「たら」が特に頻出している。
3. 本作品にはアラビア語の翻訳があり、実に正確な訳である。AIN-SHAMMUS大学文学部アラビア語学科元教授のハサン・エルサムニー教授が日本人の小谷野 晃氏と協力して出来上がった翻訳だけあって、非常に正確なものである。

文学作品の翻訳には正確に翻訳するというよりは、文学的な“美”を重視するものが多いが、この翻訳はそうではない。日本語の文を一字一句訳しているため、本論のような言語現象の比較対象研究に最適である。

4. 本作品の文章は短文で簡潔なものが多いため、条件表現の特徴がはっきり見て、アラビア語と比較しやすい。
5. 1981年初刊以来、数万冊発行されるほどの人気作品で、21か国語に翻訳されている。

先行研究

言語表現の一つとしての「条件表現」は、古来より言語学および隣接領域でも様々に議論されてきた課題である。言語学においても条件法の研究は現代に至るまで長い歴史と蓄積を持ち、殊にこの数年は多くの興味深い成果が次々と発表されている。多彩な分野で研究が進んでいる点は、多種多様な言語表現の研究の中でも「条件表現」の研究が持つ特色の一つであろう。しかし、それぞれの立場での研究が進展する一方、異なる研究分野の間で相互の研究成果が十分に共有されているとは言えない状況もある。研究分野により目指すところや、対象たる「条件表現」の範囲・定義・分類も様々で、使われる用語・述語にも類似や異同があり、同じ述語でも概念規定がずれることもある。

「条件表現」ということばをタイトルに含んでいる本が数多く書店に並んでいるのも事実である。益岡隆志編『日本語の条件表現』くろしお出版や、有田節子・蓮沼昭子・前田直子（2001）『条件表現』日本語セルフマスターシリーズ7くろしお出版、有田節子（2007）『日本語条件文と時制節性』くろしお出版、益岡隆志編（2006）『条件表現の対照』くろしお出版、小林賢次（1996）『日本語条件表現史の研究』ひつじ書房などである。また、非母語話者の日本語学習者向けに、文法書や参考書・問題集なども多様に用意されている。

条件表現は主に「現代日本語学」「日本語史」「方言研究」「各言語との比較・対照」という4つの立場から研究してきた。

「現代日本語学」

現代日本語学の条件表現の扱いには、大きく二つの要件があつたように思われる。①一つは典型的な「と／ば／たら／なら」形式の形態的な特徴と、それぞれの帰結部分である主節に現れるモダリティー的な要素、述語の意志性・無意志性の所在といった叙述的な性格の記述である。そして次の要件としては②それらの条件表現が「ては／ても」といった隣接する条件表現や、他の個別的な形態をもつ諸表現とともに、どのような文の環境、文脈の中で現れ、談話展開的な機能をもつのかといった視点である。

条件表現の一般的な特徴に関しては、山梨（1994）¹有田・蓮沼・前田（2001）²などは非常に簡潔、わかりやすく解説している。「と／ば／たら／なら」形式の特徴や各形式との比較に関しては、鈴木（1994）³、益岡（2006）⁴、前田（2008）⁵、田中（2005⁶、2008⁷）、が研究成果を重ねている。条件表現の叙述的な性格については、岩男（2008）⁸、田中（2004a）⁹なども詳しく述べて

¹ 山梨正明（1994）「条件文の表現機能と言葉の認識」『日本語学』8月号 VOL. 13 明治書院

² 有田節子・蓮沼昭子・前田直子（2001）『条件表現』日本語セルフマスター シリーズ7くろしお出版

³ 鈴木義和（1994）「条件表現各論 一バ／ト／タラ／ナラ」『日本語学』8月号 VOL. 13 明治書院

⁴ 益岡隆志（2006）「日本語における条件形式の分化」益岡隆志（編）『条件表現の対照』くろしお出版

⁵ 前田直子（2008）「条件の「たら」と「ば」」『言語』10月号 Vol37 No.10 大修館書店

⁶ 田中寛（2005）「条件文と条件表現の体系的研究：序章」大東文化大学紀要 43号

⁷ 田中寛（2008）「「ト」の事象性にみる結果指向と公共意識」『言語』10月号 Vol37 No.10(447)大修館書店

⁸ 岩男孝哲（2008）「話者の思考と属性叙述」『言語』10月号 Vol37 No.10 大修館書店

⁹ 田中寛（2004a）『日本語複文の研究 接続と叙述の構造』白帝社

いる。仁田（1989）¹、井上（2006）²、は条件表現とモダリティーの密接な関係を検証するうえで貴重な示唆をあたえるものであつた。

日本語史

条件形式、条件表現の出現は実は八世紀にはじまる有史時代以前に属する。なぜ現代日本語にこの四形式が存在するのか、その起源の探究は、古代語を中心とする有史時代に傍証を求めながら、古代語の条件形式の原型を探り、かつ、それに基づくその形式の形成過程を原理的に推定する研究は、矢島（2008）³、山口（1994）⁴、小林（1996）⁵ が担っている。

方言研究

条件形式の使用比率、地域差、標準語との意味のずれ、がいつごろからどのような経緯で生じてきたのか、などに関して、日高（2008）⁶ 小林（1994）⁷などが記している。

各言語との比較・対照

¹ 仁田義雄（1989）「現代日本語文のモダリティーの体系と分類」『日本語のモダリティー』くろしお出版

² 井上和子（2006）「日本語の条件節と主文のモーダリティ」Scientific Approaches to Language No.5, 9-28, Center for language Sciences, Kanda University of International Studies

³ 矢島正浩（2008）「条件表現史からみる否定的當為表現の推移」『言語』10月号 Vol37 No.10(447)大修館書店

⁴ 山口堯二（1994）「条件表現の起源」『日本語学』8月号 VOL. 13 明治書院

⁵ 小林賢次（1996）『日本語条件表現史の研究』ひつじ書房

⁶ 日高水穂（2008）「標準語と方言の意味ずれ」『言語』10月号 Vol37 No.10 大修館書店

⁷ 小林賢次（1994）「条件表現の変遷 一仮定条件表現形式の地理的分布とのかかわりー」『日本語学』8月号 VOL. 13 明治書院

条件表現を多言語と比較対象した研究も多くある。条件節はどの言語においても他の従属節と比べ複雑な文法現象を示す傾向にあるので、それを比較することを通して、それぞれの言語の構造的特徴が浮き彫りになる。条件表現の日英対照は、中右(1994)¹、有田(2006)²が代表的なものである。日中対照は中島(1994)³、小川(2001)⁴などもある。タイ語に関しては、田中(2006)⁵、中川(2005)⁶が数多くの論文を記し、日本語、タイ語の条件表現を徹底的に解剖している。

スペイン語(2006)⁷、韓国語などもある。

研究意義

条件表現はどの言語にも存在する世界共通の言語表現と言わされており、条件表現を多言語と比較対象した研究は多くあるが、アラビア語と日本語の条件表現を比較した研究が管見の限り見当たらない。諸言語における「条件表現」の全体像を解明するためには、アジア系、印欧系の言語だけでなく、他の個別言語レベルにおける「条件表現」の特徴を記述する必要があると思われる。

¹ 中右実(1994)「日英条件表現の対照」『日本語学』8月号 VOL. 13 明治書院

² 有田節子(2006)「時制節性と日英語の条件文」益岡隆志(編)『条件表現の対照』くろしお出版

³ 中島悦子(1994)「日中条件表現の対照 —「と」を中心として—」『日本語学』8月号 VOL. 13 明治書院

⁴ 小川泰生(2001)「日本語と中国語の接続表現—条件を表す(たら)ー」『中国語学研究論集』第8号

⁵ 田中寛(2006)「タイ語条件表現の研究—条件節と時間節における文の叙述ー」『大東文化大学紀要』44号

⁶ 中川サワリー(2005)「日タイ語における条件表現の意味—意義素の内部構造ー」『名古屋大学言語学論集』第20巻

⁷ 和佐敦子(2006)「スペイン語と日本語の条件表現—叙法と時制の観点からー」益岡隆志(編)『条件表現の対照』くろしお出版

その一環として、本論では、アラビア語における「条件表現」の特徴を記述する。アラビア語母語話者である筆者が、日本語学習経験を生かしながら、日本語とアラビア語の条件表現の対照研究を行おうと思う。

研究構成

本研究は次のような構成になっている。「はじめに」、「まとめ」及び五章から成っている。第一章では、日本語における条件表現の定義、範囲、体系、特徴などを述べ、第二章では、同じようにアラビア語における条件表現の定義、範囲、体系、特徴などを明らかにする。第三章では、特に焦点を当てたい条件形式の一つ「たら」形式の特徴や用法を整理しておきたい。第四章では、黒柳徹子作『窓ぎわのトットちゃん』における「たら」使用例とのアラビア語対訳を分析し、筆者の考察を加えようと思う。第五章では、これまで明らかになった特徴を元にアラビア語・日本語における条件表現の共通点と相違点を論じる。最後に「まとめ」のところでは、本研究のまとめや今後の展望について述べる。

研究の範囲

本稿の考察の対象は現代日本語における条件表現であるが、研究に先立って、まず何をもって条件文、条件表現と称するのか、という基本を確認しておきたい。一般に条件文といえば、「と」「ば」「たら」「なら」の主要な四形式があげられる。おおかたの研究もこれらに焦点をあてて進められてきた。しかし、これを中核とすれば、その周辺には「ては」の弱条件、あるいは既定主観条件、「ても」および「とはいえ」、さらに「ようが」、「てでも」「てまで」などの譲歩（逆条件）、「ところ」「限り」「以上」、などの個別的な条件形、「といえば」「となると」などの後置詞型条件形の

用法があげられる。

また、本論では対象の外に置かれるが、条件という概念を条件〈P〉と帰結〈Q〉という大枠で大きく切りとれば、原因理由表現「から」「ので」「ために」など、また目的表現「ために」「よう」、「のに」なども含める見方もある。よく知られているように、国文法研究においては、条件文と原因理由文はそれぞれ「順接仮定条件」「順接確定条件」と呼ばれ、条件表現の下位類とみなされている。古典日本語においては、両者を表すには同じ「ば」という接続形式が用いられていたからだと考えられる。現代日本語の研究でも、理由文を条件表現に含める研究もある。例えば、有田・蓮沼・前田（2001）¹は「条件表現には、条件文、理由文、逆接の文があり、日本語にはそれらを表す形が多くある」と述べ、次のような例をあげている。

〈条件〉 薬を飲めば病気が治る。薬を飲んだら病気が治る。薬を飲むと病気がなおる。

〈理由〉 頭が痛いので授業を休む。頭が痛いから授業を休む。

〈逆接〉 スイッチを入れても電気がつかない。スイッチを入れたのに電気がつかない。

これまでみたように、日本語条件表現の形式は様々で、分類もいろいろある。しかし、なんといっても、「と」「ば」「たら」「なら」は条件を表す基本的な形式であることに間違いない。そう提唱する研究も少なくない（益岡・田窪 1992²、高橋他 2005³など）

¹ 有田節子・蓮沼昭子・前田直子（2001）『条件表現』日本語セルフマスター シリーズ7 くろしお出版

² 益岡隆志・田窪行則（1992）『基礎日本語文法 改訂版』くろしお出版

³ 高橋太郎 他（2005）『日本語の文法』ひつじ書房